

【知事からの説明】

新田知事より 資料（別添）により富山県成長戦略会議「中間とりまとめ」について説明

【グループ発表①～④】

①

一つ目は移住定住を希望される方の仕事を支える仕組みづくり。一個の仕事に就くというよりも、組織に所属して、派遣まではいかないんですけれどもそういう形の仕組みを作っていければなと思っております。

二つ目は、今自分たちが一人一人やっていることに自己理解。自分自身のことを内省することを盛り込んでいく。そうすると自分の幸せってなんだろうとか。他人や周りから与えられる幸せではなくて自分はどうなれば幸せなのかということをも自分の中から感じていくということが大事かなと思います。

三つ目は、若者も女性も役割を発揮できるまちということで、よそから来た女性ってすごく活躍しているとか。全国的にも女性が活躍できるというのは一つのキーワードかなと思っています。私5人子供がおりまして、全員女の子なので絶対活躍してほしいと思っています。

知事：移住定住の人たちを支えるというのはとても大切で、地域おこし協力隊さんが引き続き定住してもらえるか離れていかれるかまさに仕事のことなんですよね。しっかり取り組みます。それからウェルビーイングを考えていくうえで、傍から見たら幸せだけど自分ではわかっていないというシーンは結構あるのかもしれませんが、これは本当に一人一人がしっかりと考えていくことが大切だと思いました。女性活躍のためには色々変えていかなければならない。働き方改革もこれに繋がりますし、男性の家事育児の参加も女性活躍に繋がります。総合的な政策になると思います。しっかりと取り組んでいきます。

市長：富山県がジェンダーギャップとかそういう意味では日本で一番になるということを書いていただきたいというくらい私は思っています。総務省の特定地域づくり事業協同組合制度を利用して農業を支えていこうという方がおられるというふうに聞いていましたので、そのあたりもしっかり考えていきたいと思っていますが、まず住民自治を変えましたよね。自治振興会と公民館と地区社協をやめて一つにした。そういうようなものを今度は地域のコンセンサスを取ったり、地域の寄り合いみたいなものが、そこに女性とか若い人たちの意見をどんどん入れられるような仕組みができて、今実践しておられるんですよね。そういうものが社会とか企業にどんどん入って行って、最終的には男性も女性もその人の能力を発揮できるまちをつくるということが一番大事だと思いました。

②

まず南砺幸せ川柳をやらせていただけないかなと。幸せ自慢ってなかなかしにくいですがね。幸せ川柳として大々的にやってしましましょう。皆さんにお伝えすることで、こんな幸せを感じているのかということを知ってもらいましょう。小さな幸せでもそれを聞いた人が

「こういうことも幸せなのか」と気づくことができる。ウェルビーイングというものを大々的に広めていきたいと思っています。

もう一つは、南砺市のお祭りフェスティバルということで、南砺市で一番大きな祭りを作ろうということです。全部ひとまとめにして一番大きな祭りとして売り出していきましょう。文化的資源や人の繋がりというところにも繋げていければと思います。

最後に、女性の活躍というところなんですけれども、母の活躍ということ。子育てをしているお母さんたちが、新しく何かできる機会を整えてあげる。それにお金をつかってあげたい。女性活躍の幅が広がるのではないかと思います。

知事：南砺市幸せ川柳、とってもいいアイデアだと思います。ここで川柳をひとつずつ詠めれば良かったんですが。これは田中市長にお任せしたいと思います。それからお祭り。旧地区にそれぞれ特徴のあるお祭りがたくさんあるので、これは南砺らしいことに繋がると思います。交流人口が増えたりすることに繋がっていけばと思います。それから母が活躍できるという。育児のことをはじめ、いろいろと環境整備も。大きな政策目標になると思います。

市長：川柳が浮かびませんでした申し訳ございません。一人一人の幸せってどこが幸せでどこが幸せじゃないのかわからないんですけれども、わかりやすくこういうことも幸せだということのを並べていくのは川柳みたいなものを使った方が面白いなと思いました。ネットでみんなを集めたりしながら楽しみながらやるのもいいかもしれません。県の計画に入れるというよりも、南砺市でやっていけば面白いなと思いました。お母さんが活躍できるというのはとても大事で、保育とかそういうことも含めて育休や産休を取るというのも当然大事ですけれども、そこからすぐに活躍できるというところに持っていくために例えば産休中にスキルアップするとか。産休中にオンラインでセミナーとかを受けてスキルアップできる。産休なら富山県みたいな。元の会社に戻ればいいんですけれども、もっと違う仕事をやってみたいという人を増やしていくというのもいいかなと思います。

③

幸せを考えた時に、まずは住んでいる自分たちが幸せでないと誰にも幸せは伝わらないだろうということでいろんな意見が出ました。

女性の働きやすい場所だとか、環境というものをまず構築したい。若い女性だけじゃなく、共働き率ナンバーワンの富山県だからこそ男の人達も一緒になって子育てとか、子連れで利用できるコワーキングスペースとか児童館でそういった場所を作るとか。それを女性だけじゃなくて若い男性と一緒に考えていく必要があるのではないかと思います。

やっぱり安全も大事なので、横断歩道とか誰でもパッと子供が歩いていたら止まれるような、そんな世の中にしたいと思った中で、車はスピードが速いのですけれども、ゆっくりと走れるようなスローで動けるまちづくりというものもあったらいいんじゃないかなと。どんどん高齢化していった車の運転免許を返納すると増えてくると思うのがシニアカーの普及というのも大事なかなと思います。

こういう環境が整った中で移住してみたいとか、外国人でもそうですし、そういう人たちがシェアハウスとかでこういう所に住んでみたいというような場所づくりというのにも必要なのかなと考えました。

知事：子連れで利用できるコワーキングスペース、これもいいアイデアだと思いました。成長戦略会議の委員の一人にママスキーの土肥さんという方がおられまして。彼女はママになってみて色々な課題、ママがやりにくいことに気づいたと。じゃあ変えなきゃということ、自ら会社を立ち上げました。ママスキーがやるママイベントはものすごい動員力。数千人集まると言われています。ますますそういったニーズは多いんだということを感じました。ビジネスとして成り立っているということなんですね。そういう人たちを応援していけたらと思います。それからスローということ。単純にスローにしちゃうと今の世の中には置いてかれるかもしれないので、成果を上げるためには色々変えていかなければならない。急ぎすぎたこれまでの私たち、走り続けてきたことに対して鎮静剤にもなるのではないかと。スローというのは一つのキーワードだと受け止めました。

市長：日本で一番親切な県富山県ということで、親切なんだと。スローで動けるまちというのは、時代の流れを遅くしようということではなくて、例えばグリーンスローモビリティとか。スローシティとか。井波のまちはシニアカーが走るの、まちの中を普通の車は15 km以下で走りましようという風にするとかですね。そうするとおじいちゃんおばあちゃんが家の前から向こう側に移る時に、気をつけなきゃならないんですけども、少し安心して車もゆっくり止まれるという。そういうまちがあったらいいなという。もしくは黒部の宇奈月を走っているような電気カーに若い人たちが動きながら乗れるとかですね。それが親切なんです。そんなコンセプトでやっていくと面白いなと思いました。この間ある方がワーケーションで来られて車もないのでタクシーを呼んで。その方は子供さんが生まれて1ヶ月でワーケーションをしていただきました。おしめを買いにどこへ行けばいいのかということ、タクシーの運転手さんに聞いたら、運転手さんは女性の方で、分かりましたということで、ショッピングセンターに行って、私もついて行ってあげるといって、買ってレジまで行ってまた持って帰ってきて部屋まで持って行ってくれたと。これは嫌だという人もいるかもしれませんがその方は「南砺市は日本で一番親切なまちだ」と言われたんですね。公共交通とかまちの人たちも、そういう気持ちになれるような親切な富山県がいいんじゃないかな。

④

まずはコワーキングスペースとか中長期滞在の施設がないということですが、よく考えたら公民館があるじゃないかと。公民館をもっと自由に使えるようにオープン化して、お金を取って外部の人も使えて、そのお金は町内会で使うという運営をしてもらう。ついでに公園もオープン化して、ちゃんとルールを守ってお金を払って使ってもらう。

農業体験や田舎体験など、いろんな体験が既にあると思うのですが、伝統文化の体験ですね。獅子舞とか祭りとか。一か月単位で来てもらって、一か月がつつり体験してもらう。そういったのも面白いんじゃないかなと。

もう一つが、伝統産業の地域商社というか、ローカルプロデューサーというか。海外へ南砺市の伝統産業を売り出していく。海外にあった価値で売り出していくというような人がいればいいなということでもあります。

知事：公民館とか公園、公共施設がより住民の皆さんの役に立つように。休日は閉まっているし。いかに稼働率を上げていろんなニーズに応じていくか。我々が汗をかかなくてはいけないと問題を認識しています。それから学校もですよね。空いている時間をどう活用してい

くか。南砺福光高校もいよいよ歴史を閉じるわけですから、せつかくのみんなの大切なコミュニティの場所だったわけですから、みんなで知恵を集めてより良い使い方、活かし方を考えていきたいです。伝統産業世界に売るといふ。これはやっぱり自分たちがやるしかないですね。是非リーダーシップでやってください。それを一生懸命応援しますから。一番わかっている皆さんがそれをやる。応援することをどんどんやりたいと思います。

市長：公民館とか公共施設をオープンにするということはすごく面白いなと思います。地域の方々の管理体制があるとかちょっとわかりませんが。そこが公共交通の発着点になるのか、いろんなアイデアがそのことによって動き始めるんじゃないかなという予感がしました。南砺市にとっては公共交通が色々と課題ありますので。そういったことも含めて考えれば良いのではないかなと思います。県と市はやっぱり何かを突き抜けていくとどう応援するかということに入っていきますので、伝統産業という言葉はある意味好きなんですけれどももしかしたら最先端産業かもしれないという。そこをどううまくみんなで作っていくか大事かなと思ったりしました。

【参加者感想】

参加者：自分たちのグループで出たものと他のグループで出たものって、すごくいっぱいあるんじゃないかなと思いました。パラダイムシフトっていう当たり前を疑っていくことが大事なんじゃないかなとすごく感じました。今までやっていることが当たり前だと思っているから、アイデアが出てこないんだなと。伝統文化もずっと続いているけれどそれが本当に正しいのか。極端に言うと。自分達の固まった頭をいかに柔軟にできるかというのが非常に大切なんじゃないかなと思いました。私自身もそうですし年配の方もそうですし、年齢のぶんだけ変わらないとよく言うけど、そうじゃなくて。当たり前を変えていく。そんなまちづくりができればもっといい富山県になるのではないかなと思いました。

参加者：やっぱり皆さん自分の住むまちには興味があるし、好きだし。こういうものをもっと人数を増やした形で皆さんからいろんな意見を聞けるようにしたい。出たアイデアをちゃんと実現していくことが次のステップだと思いますので、どういう風にできるかということをお今日学ばせていただいたので自分自身も考えていきたいなと思います。

参加者：やっぱり地元が大好きなんです。たぶんここに来られている皆さんも愛しているんだなと思います。そういう人たちがたくさん地域にいればいるほど、こうやっていこうという意見も増えてくるんじゃないかなと思います。こういう場をそれぞれの地域で作ったとしても来たくない人は来たくないと思います。でも想いを持ってないわけではないと思いますので、そういう人たちにどういふふう意見に聞けるか。雰囲気というか場を考えていかなければなと思いました。意見はないけれどこういう人たちがいるなら着いてこうという人たちはたくさんいると思うのでそういう人たちに目を向けられるような地域づくりをしていきたいなと思います。

参加者：当たり前や常識が本当に自分が求めているものなのか、突き通したいものなのか改めて考えてみるということがウェルビーイングに繋がっていくのかなと思いました。改めて注目されているクリティカルシンキングというものもその一つだと思いますので。今日皆さんから頂いた意見を、意見として終わらせるのではなくて行動として自分ごととして取り組んでいくことが大切だなと改めて感じました。

参加者：みんながそれぞれ自分の幸せを探せるようなまちづくり。そこに自分が参加して活動を行っていくという流れができるようなまちになっていけばすごくいいなと思いました。南砺市で一つの祭りをといることを僕は昔から思っていたんですけども、言われた時にそういえばそんなことも考えていたなあと思い出したんですけど、南砺市で一つの祭りをやりたいなと改めて思いました。

参加者：普段交流できない方とも議論ができて色々な視点を学ばせていただきました。今日一人のママとしてお話しさせていただければと思いますが、性の活躍というお話が出ていますが、女の方が活躍できる=男性の方も一緒になって手を繋いでやって行く。それって急にパパやから皿洗いやってよと言っても家事ができるかと言ったら難しいので。家庭の中で家族の一員だという自覚を持って協力できる意識付けを子供の頃からお手伝いをするとか。これをやらなきゃ明日みんなでご飯を食べられないよとか。炊飯器のスイッチを押さなきゃ温かいご飯をみんなで食べられないよ。あ、忘れとったでもおばあちゃんが押しといてくれたありがたいとか。核家族が増えているのでどこまでできるかわからないんですけども、自分の家族の役割に焦点を置くそんな育ち方をサポートできる南砺市、家族、人でありたいなと思いました。

参加者：五箇山に住み始めて10数年しか経っていませんが、五箇山にはいろんな伝統産業があるということも知りました。南砺市にもたくさん伝統文化があることを知りました。私は富山県生まれですが知らないことばかりで私が知らなかったことが皆さんには当たり前だったのかもしれませんが。当たり前を一つでも皆さんに紹介できたらなという思いで今日は学びにきました。

参加者：富山県、南砺市はとても勤勉で優秀な方が多いと思います。親として、子供を一生懸命育てて大学へいかせましたが都会へ行くと帰ってこない。すごく優秀な人たちが外へ出て行くのを、一人でも二人でも地元へ帰って来ていただくとまた役割分担も色々できるのかな。地元の人間も活躍できるのかなと。例えば都会に富山県のアパートを作ってもらって、家賃がすごい大変だと思うので、そこへ住んだら必ず帰ってくるみたいな。都会でいろんなネットワークを作ってきた人を戻して富山県を活性化することができたらいいなと思いました。

知事：今日は15回目、最後です。富山から県外で活躍をされている方もたくさんいらっしゃいます。富山県成長戦略会議11名の委員の方々、そのうち10名は富山県出身の方です。そのうち半分は県外におられます。中には息が詰まるような富山いやだから出て行ったという女性の方、こんなところじゃ活躍できないから出て行ったと言っておられる方もおられます。県外で成功されているの方々です。でもやっぱり故郷のことを気にされています。私自身も富

山が嫌で出て行った身です。いろんな経緯を経てここに座らせていただいています。そんな方は本当に沢山いらっしやると思うんですね。今は富山にいないけど富山のことを気にかけている。何か役に立ちたい。成長戦略会議から広がる人脈もいろいろありまして。ネットワークをフル活用している感じです。そういう人達にどんどん富山県を手伝って欲しいと広げていきたいと思います。富山出身じゃなくても富山のことを気になる人、幸せ人口1000万、絶対に出来ると思います。リアル人口は102万人です。その10倍の幸せ人口1000万人の方達がいらっしやれば毎日何か面白いことが起こると思います。我々ここに住んでいる人たちとスパークさせて新しいものを生み出していく。これから実現させていきたいと思います。有終の美を飾っていただいた南砺市の皆さんもここからがスタートです。是非よろしく願いいたします。

【中尾成長戦略会議座長あいさつ】

ウェルビーイングの話がたくさん出ました。

「ウェルビーイング」。もっとわかりやすい言葉にならないかと言われることもありますが、別の場では「ウェルビーイング当然知ってますよ」とおっしゃる。勉強なしにわからないと言わずに、わからないことがあったら勉強してみるというのも大事なことです。そうして今このウェルビーイングの意味が定着をしてきているところです。大変うれしく思っております。

女性が流出していくのは、男性の魅力も足りていないからではないかと思うことがあります。我々男性も自分磨いて、女性を引き留めなくてはならないのじゃないかなんて思ったりもします。

今日はすばらしい知事とすばらしい市長とこのような会をもてて大変うれしく思います。この地域、南砺市の発展を祈念しております。